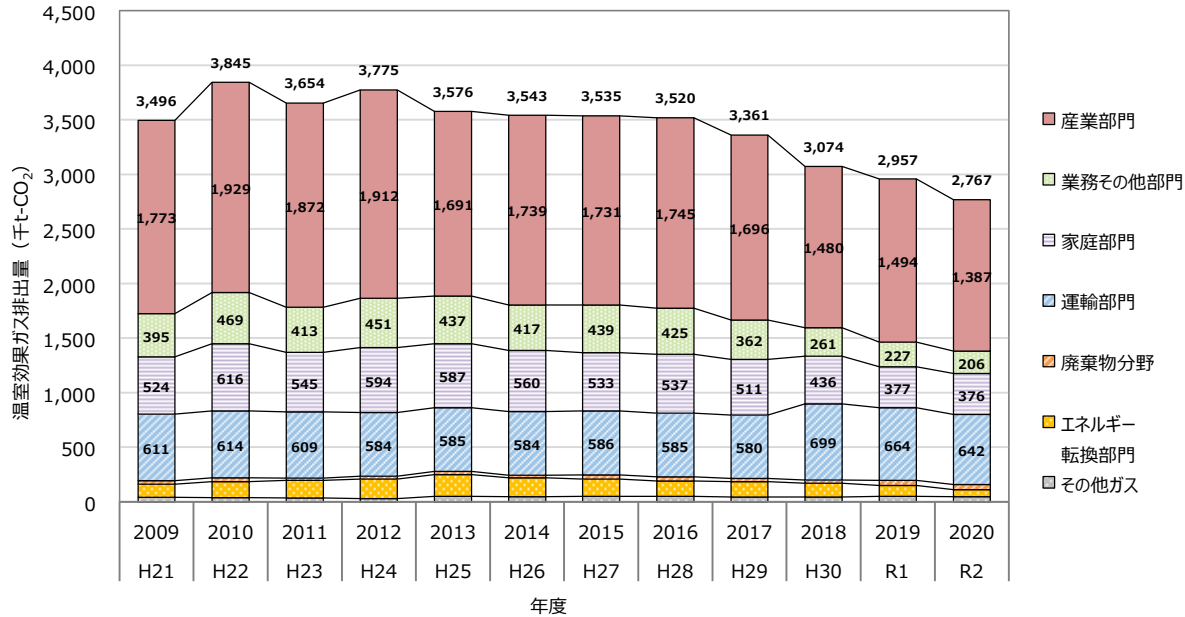


1. 本市の温室効果ガス排出量

1 現状の温室効果ガス排出量

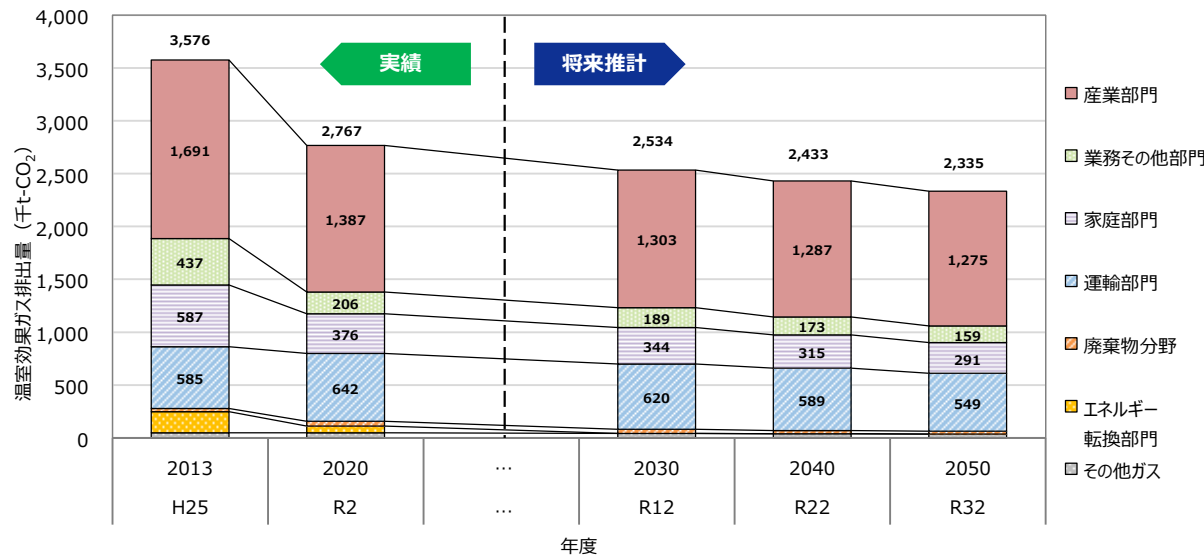
- 本市における温室効果ガス排出量は平成22（2010）年度以降、減少傾向にあり令和2（2020）年度における排出量は約2,767t-CO₂となっている（図表1）。
- 産業部門における温室効果ガス排出量が大きく、令和2（2020）年度では全体の約50%を占めていることから、特に対策が求められている。



図表1 温室効果ガス排出量の推移

2 将来の温室効果ガス排出量

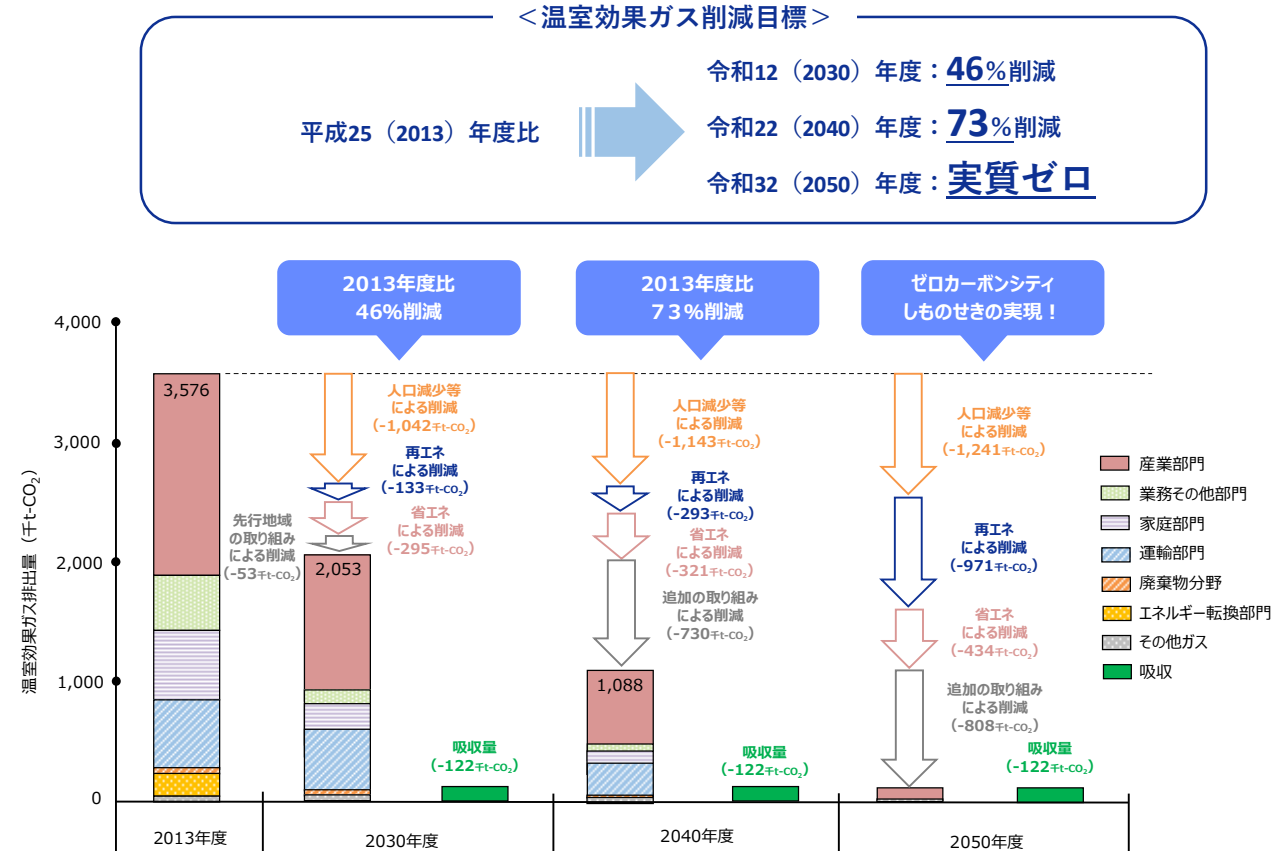
- 今後特に対策を実施せずに、人口減少等を考慮した場合の将来の温室効果ガス排出量は、令和12（2030）年度で約2,534千t-CO₂、令和22（2040）年度で約2,433千t-CO₂、令和32（2050）年で約2,335千t-CO₂となった（図表2）。
- 将来においても産業部門における温室効果ガス排出量の割合が大きいことから、特に引き続き対策を行うべき部門と考えられる。



図表2 将来の温室効果ガス排出量

2. 温室効果ガス削減目標

- 我が国の計画や将来の人口減少等を考慮し温室効果ガス削減見込みを推計した上で、本市における温室効果ガス削減目標を設定した（図表3）。
- 図表4に記載の取り組みを進めることで令和32（2050）年度における「ゼロカーボンシティしものせき」の実現を目指す。



図表3 温室効果ガス削減目標とイメージ

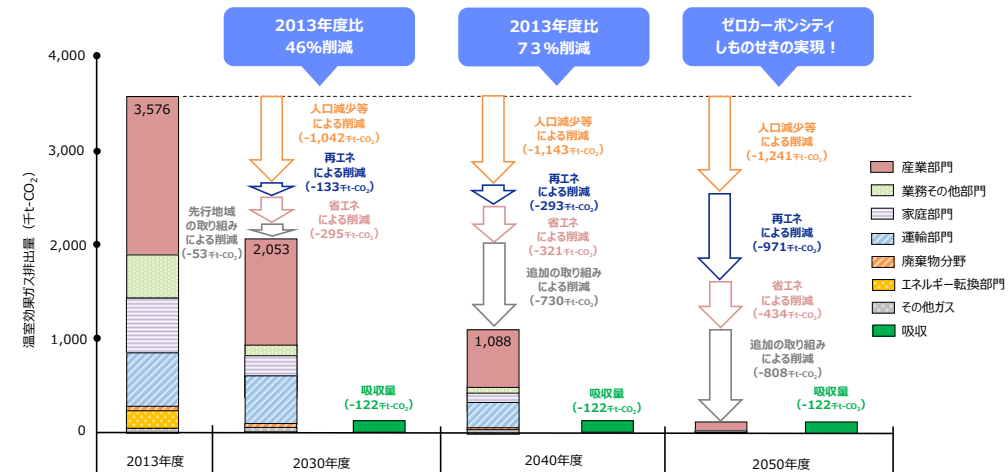
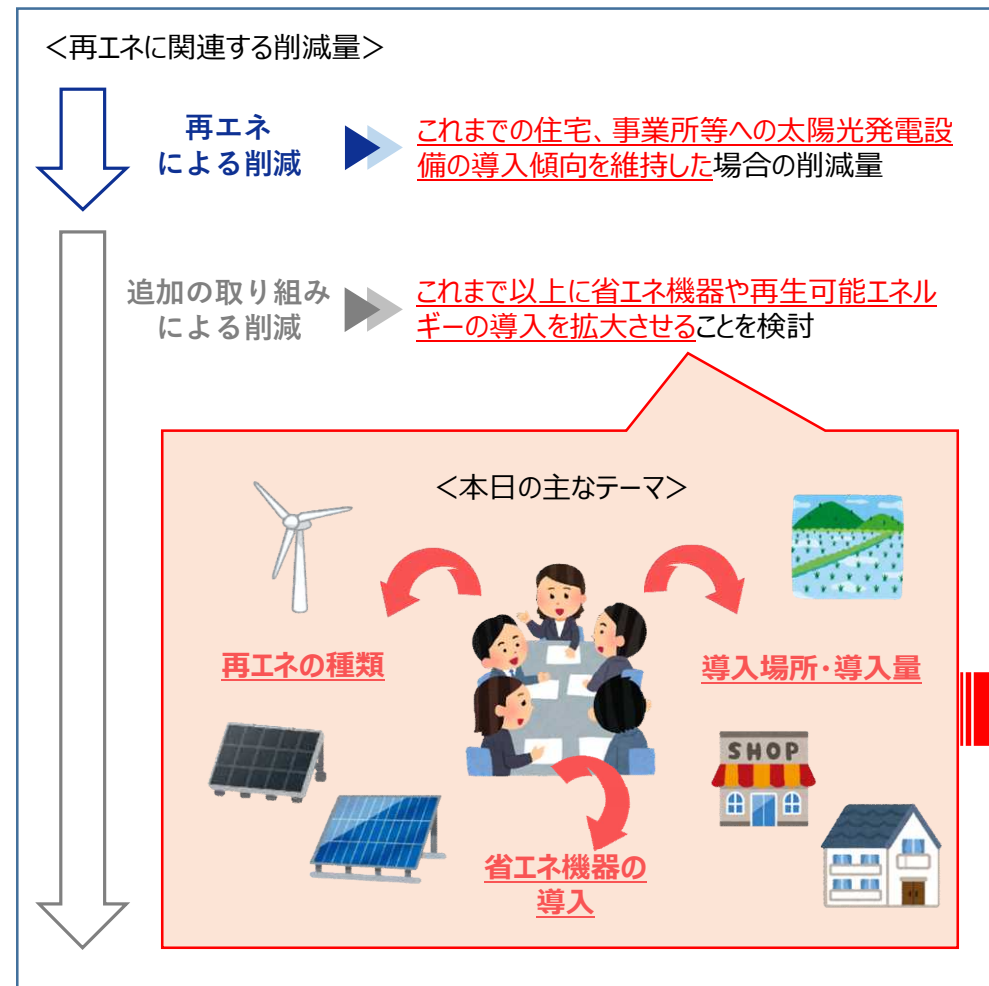
図表4 温室効果ガス削減見込み

削減の要因	概要	温室効果ガス削減量 (千t-CO ₂)		
		2030年度	2040年度	2050年度
人口減少等	将来的な人口減少や施設規模の縮小等に伴う温室効果ガスの削減	1,042	1,143	1,241
再エネの導入	これまでと同様の推移で太陽光発電が導入された場合の温室効果ガスの削減	133	293	421
省エネの取り組み	国の計画の取り組みや目標等を達成した場合の温室効果ガスの削減	295	321	434
追加の取り組み	これまで以上に取り組みを推進することによる温室効果ガスの削減	-	730	1,358
吸収源の整備	森林整備や藻場整備等に伴う温室効果ガスの吸収	122	122	122

3. 再エネ導入量拡大の検討

1 検討方針

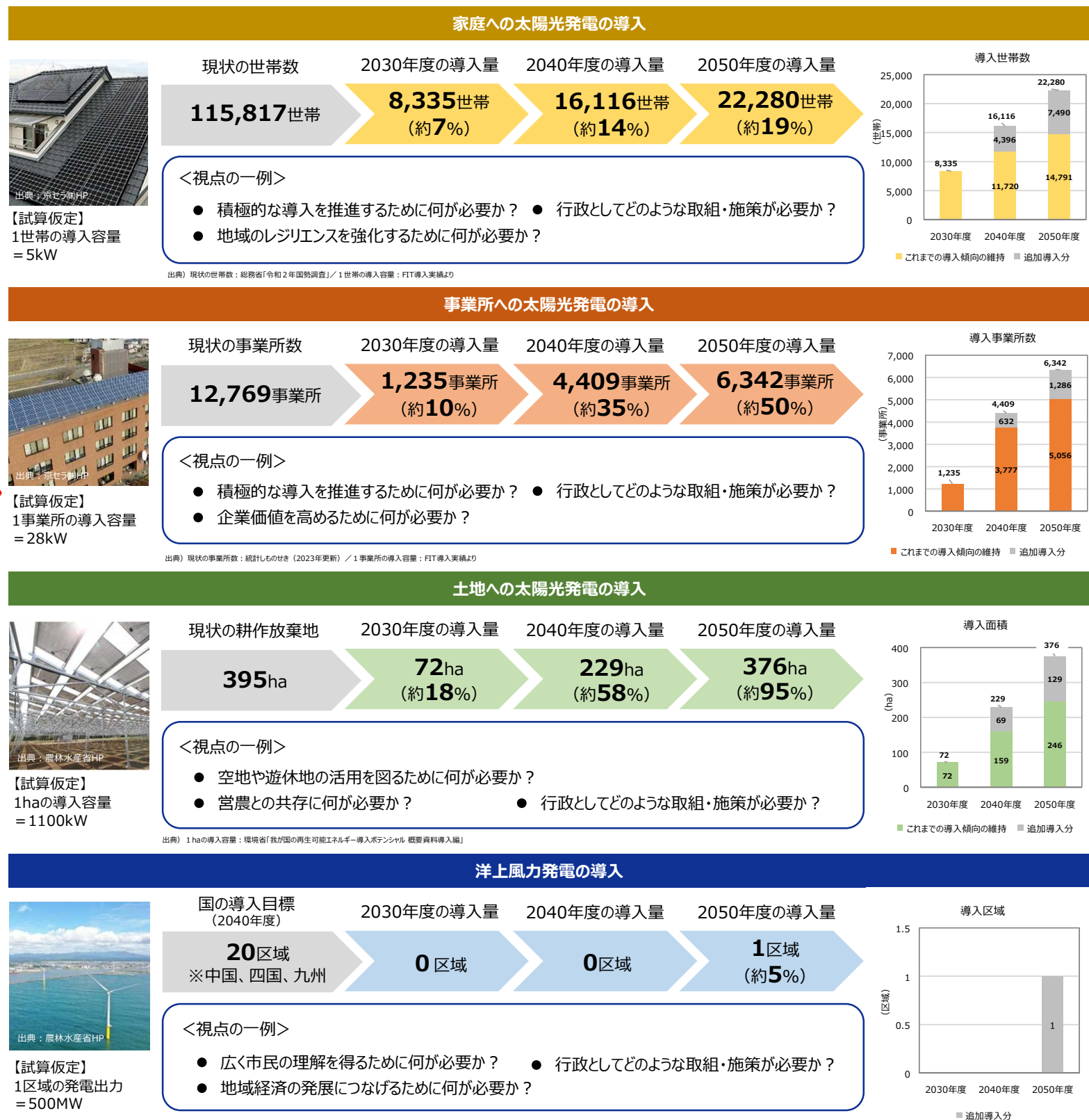
これまで以上に再生可能エネルギーの導入を拡大させ、「追加の取り組みによる削減」分をどの程度再エネの取り組みでカバーできるかを検討する(図表5)。



図表5 検討方針

2 再エネ導入量拡大の検討

「ゼロカーボンシティものせき」の実現に向けて必要な再生可能エネルギー(太陽光発電・洋上風力発電)の導入量の目安を整理した(図表6)。



図表6 再エネ導入量拡大の検討